

李 相潤 (LEE, Sangyoon)

主任研究員、博士（生物資源工学）

- 1979 韓国ソウル市生まれ
- 2008 韓国建国大学大学院社会環境システム工学専攻
- 2017 筑波大学大学院生命環境科学研究科
国際地縁技術開発科学専攻
農研機構 東北農業研究センター
- 2018 同 西日本農業研究センター
傾斜地園芸研究領域傾斜地防災グループ
- 2021 同 農村工学研究部門
農地基盤情報研究領域地域防災グループ



研究者の横顔

＜日本の生活＞

筆者は、韓国の大学院生の時代から、韓国の灌漑と多くの類似点（気象、水文条件、灌漑期間など）を持っている日本で勉強したいと思っていましたので、遅い年齢と言える 30 歳に初めて韓国を離れ来日しました。留学は人生初めての大きな挑戦でした。最初は言葉や文化の違いで、失敗したり、苦労したりしましたが、現在は日本語能力も上達し、生活面も大分慣れました。また、結婚、子の誕生、初仕事、尊敬する先生との出会いなど、筆者が人生で重要であると思っていることが日本でできたので、日本の生活は筆者に特別な意味を持っております。

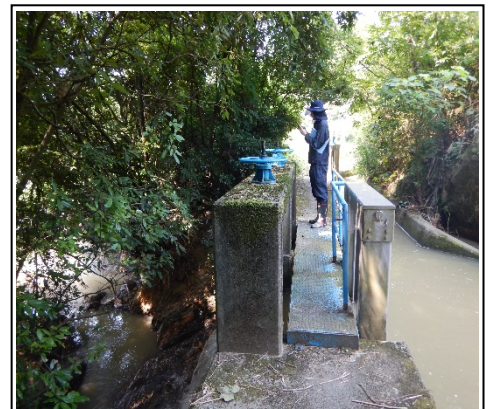
＜研究について＞

学生時代には、長期流出モデルを用いた河川の流出分析や地理情報システムを用いた流域水資源の分析（韓国）、韓国の水田灌漑の利水安全度評価やその水田開発過程の特性分析（日本）など、主に利水的な側面から水資源を評価する研究を進めてきました。博士課程修了後は、農業用水中の放射性セシウム濃度のモニタリング（東北農業研究センター）、小規模ため池の管理状況を立地条件などから定量評価する手法開発（西日本農業研究センター）、機械学習によるため池の貯水量評価モデルの開発や治水利用に向けた貯水池運用方法の検討（現、農村工学研究部門）など、主に流域治水でのため池の活用を含むため池の防災・減災や、維持管理に関する研究に取り組んでおります。

ため池の防災・減災は、ため池の重要性が高い韓国（河川流量の特徴上、ため池水資源の重要性が相対的に日本より高いと考えられます）でも重要な課題であると考えており、将来には、機会があれば、この研究分野における韓国と日本の研究活動にも貢献したいと考えております。

＜人生で大切なこと＞

筆者は、結婚する前は、人生は「一人」と信じましたが（笑）、いろんな経験により今は誰かと「同行」することが人生で一番大事なことでありと思っています。筆者も誰かの力になり、同行（研究でも）したいと思っています。



現地調査（ため池の管理状況）



好きなこと（子との散歩）